

閉会挨拶

菊地 聡（統合幕僚学校副校長）

ご来場の皆さま、防衛省統合幕僚学校副校長の菊地でございます。講師の皆さま、本日はご多用の中、貴重なお話および議論をいただきまして、誠にありがとうございました。現場において「国際の平和と安全を維持する活動」に従事する者として、多くの示唆に富んだ大変有意義なご意見を拝聴することができました。また、ご来場の皆さまも朝早くからお集まりいただきまして誠にありがとうございました。会場の皆さまからさまざまなご経験に基づく多くのご質問も大変参考になりました。「政策・学術と現場の活動の融合」という本シンポジウムの目的が一層、深化・促進されたものと思います。

国際平和協力センターは、新編されて約 2 年とまだ活動の歴史は浅いものの、国連設立以来、国際社会が追い求めてきた「国際の平和と安全」について、これまでの歴史や現在の状況、これからの取り組みに向けた課題等を幅広く教育し、現場でしっかり活動できる自衛官を育成するための各種教育を開始しました。これら各種教育の卒業者はまだ 130 名を超える程度であります。防衛省、自衛隊が取り組んでいる国際平和協力活動に関する教育は軌道に乗りつつあると言ってもよいと思います。

しかしながら、本日午前・午後にわたり、いろいろなお話を伺いましたように、国際平和維持活動はまだ数多くの課題に取り組んでいるところです。東西の冷戦構造が崩壊したころを境としたこの約 20 年間に、大きくその姿と機能を変えてきました。最近の 10 年間では、女性や子供の人権にも大きく焦点が当てられ、昨年の当シンポジウムで取り上げた「文民の保護」も喫緊の重要課題となっております。また、昨今のリビア、シリア情勢からは「国際の平和および安全を維持する活動の在り方」と実効性、およびこれに対する各国の取り組みが問われているように見受けられます。

これらのことから分かりますように、国連平和維持活動は決して安定期に入ったわけではなく、平和に対する脅威の形態、国際社会の要求、加盟国の取り組みといったものが変化していく中で、機能、枠組み、現場活動を最も適した形に変えていきながら、今後も進化していくことでしょう。そして、われわれ現場でミッションに従事する者は、正しい情報を得て、この動きを的確に把握し、平素から必要な準備を進めていくことが求められているのです。

統合幕僚学校国際平和協力センターが主催するこのシンポジウムが、自衛官のみならず、関連する分野でご活躍される有識者、活動家の皆さまに最新かつ有意義な情報を提供できる場になればと思います。重ねて、本日お越しいただきました講師の皆さま、ご来場の皆さまに、シンポジウムの成功と国際平和協力センターへの平素からのご理解、ご支援に対し、心から御礼申し上げます。来年のこの時期に再び皆さまとお目に掛かり、最新の国連ミッションを振り返って、新たな課題と方向性について議論を深めていけることを楽しみにしております。本日は誠にありがとうございました。